

かわさき区の宝物シート

宝物No.	けいきゅうはっしょうのちひ(かわさきだいしえき)
10-1	京急発祥の地碑(川崎大師駅)

エリア	大師地区	シーズン	通年
	大師周辺	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物



所在地	川崎区大師駅前1-18
問い合わせ	京急ご案内センター
TEL	03-5789-8686または045-441-0999
FAX	
E-mail	
URL	http://www.keiyo.co.jp/information/history/index.html (京急電鉄HP/京急歴史館)
交通	京急大師線川崎大師駅よりすぐ



基礎情報

- 京浜急行電鉄創立70周年を記念して、発祥の地である川崎大師駅に京浜急行電鉄(株)によって石碑が設置された。
- 明治32年(1899)京急の前身の大師電気鉄道が京都電気鉄道、名古屋電気鉄道に続き日本で3番目、東日本では最初の電気鉄道として開通した。当初は六郷橋から大師停留所の2km区間を路面電車が運行された。

由来・エピソード

- 明治5年(1872)、日本に初めて鉄道が開通し、新橋・横浜間を蒸気機関車が走り始めた。川崎駅から川崎大師への参詣客の多さに注目した資本家・立川勇次郎が、明治29年(1896)「川崎電気鉄道敷設特許請願書」を政府に提出し、明治31年(1898)2月25日に大師電気鉄道(株)を創設する。翌年1月21日に、六郷橋～大師区間での操業が開始された。川崎駅から直通で大師まで営業していた人力車夫組合「だるま組」の反対などによって六郷橋からの運行となった。開通日は、川崎大師平間寺の縁日にあたり、参詣客以外の見物人も大勢集まり、数十人の警官がその整理にあたったという。
- 開業当時の資本金は9万8千円、単線2kmで保有車両は5輛だった。多摩川の河岸にはアメリカ製のボイラー設備をそなえた久根崎火力発電所がつけられ送電が行われた。同年4月に京浜電気鉄道(株)と改称、11月には乗客増に対応し複線化された。なお、発電所の余剰電力の供給も行われ、これを頼りに多摩川沿川・周辺には次第に工場が進出し、後の京浜工業地帯の基礎が形づくられていくことになる。さらには、電鉄利用促進をはかる目的から、電灯電力供給事業を土台とした住宅地の造成・分譲(関東の私鉄では最初の住宅地分譲)や、工場誘致と住宅地造成を目的とした川崎運河(現在の京町緑地)の開削など、沿線開発事業にも力を注いだ。
- 大正14年(1925)、鶴見の総持寺と川崎大師を結び、臨港地区への通勤客の輸送を目的とする関連会社「海岸電気軌道」が発足するが、程なく昭和5年(1930)に浜川崎から路線を延ばしていた鶴見臨港鉄道(現JR鶴見線)に合併された。さらに軌道線が路面を走っていた産業道路の拡張を契機に、昭和12年(1937)12月、海岸電気軌道は廃止された。その後、工場地帯への戦時の輸送増強を目的として、昭和19年(1944)海岸電気軌道の路盤跡を利用し大師線の大師～産業道路間が開通された。昭和23年(1948)6月に現在の京浜急行電鉄(株)に改称し今に至っている。

補足・その他

- 川崎大師駅の改札口付近にある10本の柱には「1928」という刻印がある。これは昭和3年(1928)に六郷橋～川崎大師間を現在のルートに変更した際に使用されたレールを、昭和31年(1956)の木造からコンクリート造への駅舎改築にあたって支柱として使用したものと考えられている。

関連シート

- (1-2)六郷橋駅跡
- (5-4)京浜急行大師線 港町駅
- (5-9)京浜急行大師線 鈴木町駅
- (8-8)京町緑地と川崎運河の遺構
- (22-2)鶴見線
- (22-3)南武線(支線)